

NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2013年11月08日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2011000070"/> 整理番号 <input type="text" value="11664"/> 担当者 <input type="text" value="井上 典之"/>
表 題	<input type="text" value="旋律から概形を抽出する方法およびその旋律編集への応用"/>
技術分野	<input type="text" value="情報・通信"/> <input type="text" value="音楽"/>
適用製品	<input type="text" value="音楽制作ソフトウェアなど"/>
目 的	<input type="text" value="近年、一般消費者が自ら作品などを制作する文化が定着しているが、作品の全要素を自らが制作するのは難しい。音楽については自動作曲システムが普及しているが、自分の要求に合った楽曲が生成されるようにシステムに条件を提示するのは困難である。そこで、自動作曲システムなどが生成した楽曲を、音楽的な知識や経験のないユーザが、自分の要求に合ったものに作りかえることのできる技術を提案する。"/>
技術概要	<input type="text" value="本提案の肝は、通常、ドレミの系列として表される旋律を、なめらかな曲線(以下、旋律概形と呼ぶ)に変換する技術である。単位時刻ごと(たとえば10msごと)の音高(基本周波数)の系列に対してフーリエ変換を行い、低次の係数のみ残して逆フーリエ変換を行うことで、音高の系列をなめらかにしたものが得られる。これにより、ドレミの細部といった音楽の素人には難しい情報を取って隠した旋律の表示が可能である。ユーザは、この曲線をマウスで描き直すことで、旋律の編集を行う。編集が終わったら、改めて編集後の曲線に対してフーリエ変換を行い、それによって得られたフーリエ係数と、旋律概形抽出時に使わなかった高次のフーリエ係数を結合して再度逆フーリエ変換することにより、新たな旋律を得る。この方法により、ユーザの編集と元の旋律の両方の特徴を保持した旋律を生成することができる。"/>

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>
会社名	<input type="text"/>
所 属	役職 <input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/> FAX番号 <input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>
連絡事項	<input type="text"/>



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp